

ブロッコリー



育苗

25~30日

セルトレイ
地床育苗

- ➡ ●畑の大将<青>をトレイ1枚当り 20g (1反分30枚で600g) 散布しておく。
- ➡ ●畑の大将<青>を播種床10m²に 700g、移植床70平米に5kg散布。
※カルシウムでガッチリ充実した苗を作り、定植後 速やかに活着させる。

散水時に使用
※状態により適宜
調節する

- ➡ ①播種・覆土後の灌水に根っ酵素1000倍液 → 発根・発芽を揃える。
- ②播種後10日頃に根っ酵素1000倍液を葉上から散水 → 根張り・生長の促進。
(この後、もし肥切れになったら液肥散布。しかし通常は不要)
- ③定植前5日頃に花咲くCa液500倍 → 葉を厚く、充実させる。
(寒冷紗を外して苗を馴化する場合は、その前からの散布が効果的)

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り	なるべく早い時期に (播種までに1ヵ月以上おくこと)	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g →排水よく、根の張りやすい肥沃な土を作る。 ●堆肥 2トン(なるべく多く) ●硫安 冬春播き・初夏穫り=100kg 夏播き・秋冬穫り=60kg ※土壌pH:6.5を目標として、もし土が酸性なら、地力作り時にも畑の大将<青>を投入し、土層全体を中和しておく。特に根コブ病の頻発する畑では、酸性の中和も大事。
整地時	整地・ウネ作り時に全面散布、 またはウネ上に散布	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 冬春播き・初夏穫り=100kg 夏播き・秋冬穫り=60kg ※畑の大将<青>は硫安と同量以上を施す事。 ●マンゾク粒状60kg →根の増強、生長促進、土壤病害・根コブ病対策。
定植	定植後の灌水の時に	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液 →初期の根張り・生長の促進、根コブ軽減。
初期(20日)	葉面散布で調節 ★定植後25日頃 Ca液の葉面散布で緻密な 花蕾が出来る	生長が弱い場合は根を見る事。 ●根っ酵素500倍液で葉面散布 → 根が強く働き、生長が進む。 ※通常、初期にチッソなどの肥料を効かせる必要なし。 ※もし肥料不足なら、アミノ酸液500倍を葉面散布。 ※もしチッソ過多や徒長気味なら、花咲くCa液500倍を葉面散布。 ※もし軟腐・黒腐・べとなどの病気が心配なら、花咲くCa液500倍。 (酵素液、アミノ酸液、Ca液による調節は、その後収穫前まで継続する)

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法	
[秋作]追肥	夏播き・秋穫りでは、 定植後25日(～30日)頃に	●硫安20kg	2種を同時に撒いて土寄せする 花蕾に効かせる栄養なので、 チッソとカルシウムが必要。
		●畑の大将<青> 20kg	
[冬作]追肥	冬穫り・越冬栽培では、 11～12月に第2回の追肥	●硫安20kg	2種を同時に施す →耐寒性を強め、冬の生長力を 維持。
		●畑の大将<青> 20kg	
仕上げ	収穫前15日頃、葉面散布	●花咲くCa液500倍 →花蕾を充実させ、旨味が増し、品質が向上。	

冬春播き・初夏穫り・・・1～2月播種(トンネル)、4～6月収穫／2～5月播種、5～7月収穫

夏播き・秋冬穫り・・・6～9月播種、9～3月収穫

- 【留意点】
- ①栽培中 常に、土壤EC:0.2(～施肥後0.4)、土壤pH:6.2程度(最低限5.5以上)を保つ事。
 - ②もし葉に凋れなどの異常が出たら、すぐに根を見て、悪かったら酵素液を散布する事。
根コブ病の場合でも、夕方～朝方に葉が立ち上がる初期のうちなら、酵素液で回復する。
 - ③花蕾の質は 定植後30日頃以降、花芽の分化～生長期に決定する。
緻密で均一な花蕾を作るには、栄養としてのカルシウムが最も大事。
「キャッツアイ」や異常花蕾は 高温、ホウ素欠乏などの要因もあるが、
実際には、畑の大将<青>や花咲くCa液でカルシウムを充分供給すると、きわめて少なくなる。